

やすらぎだより

12
月
号

陽気で緑にあふれた生活 それやすらぎ園です

コラム第126号

「40年の足跡」後篇

施設長 植田 誠



「施設から在宅へ」の波は、平成になるとますます加速する。施設の役割が施設単一型ではなく在宅複合型へと移行され、地域という生活圏での位置付けが求められるようになる中、やすらぎ園も幾つかの在宅事業を併設することとなる。

特に、昭和54年に始まった県内初の訪問入浴事業は順調に浸透し、北は奈良市から南は大和高田市まで奈良県内の多くの市町村をカバーしながら、そのパイオニアとしての存在感を示した。

「やすらぎ園と言えば訪問入浴、訪問入浴と言えばやすらぎ園」
現在も天理市内を中心に年間延べ3000回以上、伝統は脈々と受け継がれている。

当時は、施設に入職するとまずは訪問入浴を見学し学ぶ、高齢者介護に関わる者が目の当たりにするその現実、時代的にも薄かった「サービス提供」という意識を植え付けるのには余りあるものであり、同時に、当時の施設では掴みきれない‘生の声’がいち早く感じ取れた。

介護保険という制度が始まり、このやすらぎ園でもいつのまにやら「寮母さん」はいなくなり「介護員さん」が耳に馴染んできた。「生活指導員」という上手な名称は「生活相談員」という近しい名前に変わった。又、平成15年には平屋が4階建てとなり、居住環境は著しく向上しより堂々たる趣きとなった。

時代が移るとともに、呼び名は変わり人も変わる。時が重なるとともに、必然的に環境も変えざるを得ない。40年間の長い年月は、まさに変化の連続でもあった。その時その時の変化、そして継承してきたことに対峙した現実、それが足跡でもある。

これまで多くの課題に対し正直に向き合ってきた。今もそしてこれからも理念を基にしたその姿勢に変わりはない。40年間に受けた恩恵に報いる道、それは今後も築いていく日々の足跡だ。

12月3日はこれからも訪れてくる。



社会福祉法人やすらぎ会 実施事業

- | | |
|--|--|
| ○特別養護老人ホーム やすらぎ園 | ○ケアハウス やすらぎ |
| ○在宅サービス事業所
居宅介護支援事業所
訪問介護事業
訪問入浴介護事業 | ○介護予防関連事業
○グループホーム むつみあい
○天理市ひとり暮らし
高齢者世帯等見守り事業 |
| ○短期入所生活介護事業
○在宅介護支援センター
○天理市東部地域包括支援センター | ○低所得高齢者等住まい・
生活支援モデル事業 |